

HKFA Technical Report 2019

2019 ナショナルトレセン U-14

日時 2019年5月22日(水)～5月26日(日)

会場 Jビレッジ

福島県双葉郡楡葉町山田岡美シ森8

HKFAスタッフ

・ナショナルトレセンコーチ 山橋 貴史

・GKコーチ 尾形 行亮 ・U-13コーチ 白崎 健策

・U-14コーチ 枝村 昭 ・GKコーチ 本村 俊三

質と強度の高い環境で、できることとできないことに気づきながら、トレーニングに適応しようと努力していました。今回のナショナルトレセン前期開催にあたり、快く選手を派遣していただきましたチーム指導者の皆様及び保護者の皆様には、大変感謝しております。今後ともトレセン活動の趣旨にご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

U-13総括

U-13は、FP9名・GK1名の計10名で参加しました。予めスタッフで決めておいたグループの中でポジションや交代メンバー、交代のタイミングなどを話し合っゲームをするところからキャンプは始まり、サッカーの本質である「攻防」のテーマから、「ポゼッション」「守備」「崩し」の順番でトレーニングを行っていきました。プレーに関しては、東日本全域から集められた選手が質の高いプレーをする中で、お互いの良さを発揮できるところまで高め合うことができていました。その反面、攻守両面においてお互いのプレーを助け合うコミュニケーションについては物足りなさを感じました。これまでも道外選手と比較してよく言われてきたことではありますが、あらゆる場面で選手のコミュニケーションを引き出す働きかけを私達指導者がしていかなければいけないことを強く感じました。

今回のナショナルトレセン前期への参加にあたっては、多くの方にサポートしていただきました。ありがとうございました。今年度のトレセン活動はまだまだ続きます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

U-14総括

U-14は、FP7名、GK1名、計8名が参加しました。初日は、アップ後に12分の9人制のゲームを二本行いました。二日目の午前は「攻防」、午後は「ポゼッション」、三日目の午前は「守備」、午後は「崩し」をテーマにトレーニングを行い、最終日は、アップ後に20分の11人制のゲームを3本行いました。今回の合宿では、まずサッカーの本質から入るという意図のもと、攻防をテーマにトレーニングを行いました。選手達は、ゴールを奪うためにプレーの優先順位を意識しながらプレーしていました。また、守備もゴールを奪われないようにしつつ、ボールを奪いにいくことを意識してプレーしていました。その後のトレーニングにおいても、強い個人及びチームの守備がある中で各テーマを意識したトレーニングが展開され、北海道の選手達も日常よりも、

GK総括

GKとしては、初日のゲームに合わせ、ウォーミングアップの中でシュートストップにおける基本的技術の確認を行いました。キャッチング・ローリングダウンといった技術に対しても少し拘りを持ってトレーニングをする必要があると感じました。2日目からはFPのトレーニングテーマ「攻防」「ポゼッション」「守備(意図的にボールを奪う)」「攻撃(崩し)」の順でGKも「シュートストップ」「パス&サポート」「クロス」「ブレイクアウェイ」のTr.を行ないました。各選手はトレーニング内容をとてもよく理解してくれていたため、FPとの合流後は各セッションのプレーが非常に積極的でした。

ゲームでは、攻守において関わろうとする意識がありましたが、試合状況下での安定したテクニックの発揮には課題があり、ボールが自陣より遠いところにあるときや攻撃時のリスクマネジメントなどの準備の質も高めていきたいと感じました。

攻撃に関して自信をもっている選手が多く、優先順位を意識し様々な種類のパスを使い分けようとしていたが、状況を把握しファーストタッチに意図を持ち、コントロールの質を高めることにより、効果的な攻撃へとつなげられると自信にもなると思います。

今回U-13に関しては少年用ゴールと通常のゴールの大きさの中間の縦2.15メートル、横6.4メートルの中間ゴールを使用してトレーニング、ゲームともに行ないました。4月からゴールの大きさが急激に変わり約1ヶ月弱というなかで、中間ゴールを使用することにより、ゴールをしっかり守ることができるという意識が出ていました。ゴールの大きさを徐々に大きくすることの利点を感じました。また、今年度よりNTCコーチに就任した川口能活氏によるGKミーティングでは、現役時代の経験談や日本人GK初の海外挑戦についてのお話をいただき、選手は大きな刺激を受けており、次の日のトレーニングではとても積極的にチャレンジをしながら切磋琢磨している姿が見られとても有意義な時間となりました。